

資料 第2回磐田市総合教育会議

園長会で行った講話から

「保育・幼児教育と
小学校との円滑な接続に
向けた取組について」

磐田市立竜洋西小学校

宮沢 正志

令和5年度9月公立園長会

「園小接続」

～園小のスムーズな接続において、
カリキュラム以前に大切なこと…～

大森こども園 宮沢 正志

Q1

小学校って、日ごろ
どんなイメージをもって
いますか？

A1 (あくまで個人の予想です！)

- ・敷居が高く行きづらいし、
話しもしづらい雰囲気
- ・園(保育)を正しく理解して
もらえていない

Q2

「**連携**」と「**接続**」の
違いについて、**明確に**
説明できますか？

A2

連携（れんけい）
交流活動等、**接続**を達成す
るために**互いに協力**すること

A2

接続（せつぞく）
双方の**教育をつなぎ**、**円滑**
な移行を達成すること

A2

接続（せつぞく）
子どもたちの**学びをつなぐ**、**教**
育課程の計画・実施が必要
(**アプローチカリキュラム**、**スタートカリキュラム**)

Q4

園長として日ごろから積極的に、小学校との連携を図っていますか？

園長として⇒

やるべきこと

A4

・園長

※磐田市立幼稚園・こども園長会作成
「磐田市立幼稚園・こども園職員として」
より抜粋

⇒渉外、他団体関係の総括

・主幹課 ・市教委

・小中学校 ・地域諸団体等

A4

・園長⇒⇒⇒連携

敷居を低くする努力

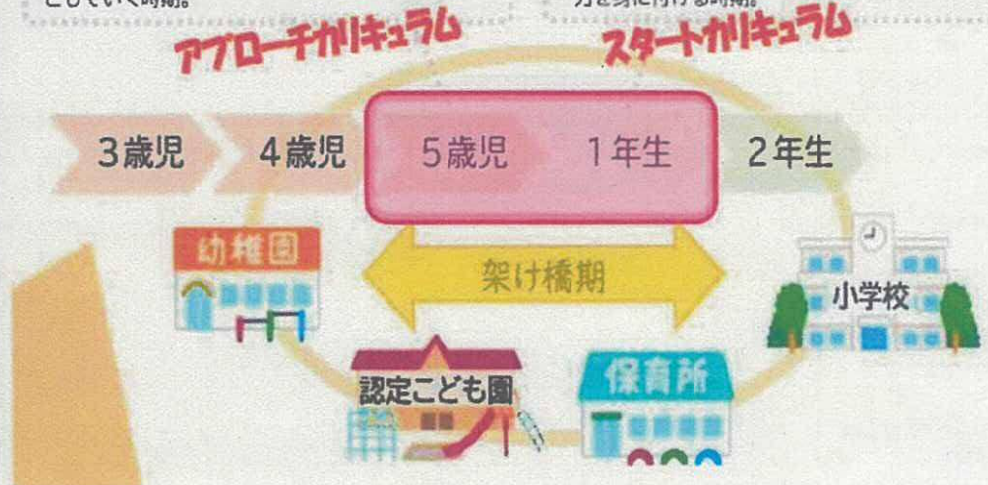


学校長との連携 (情報交換)

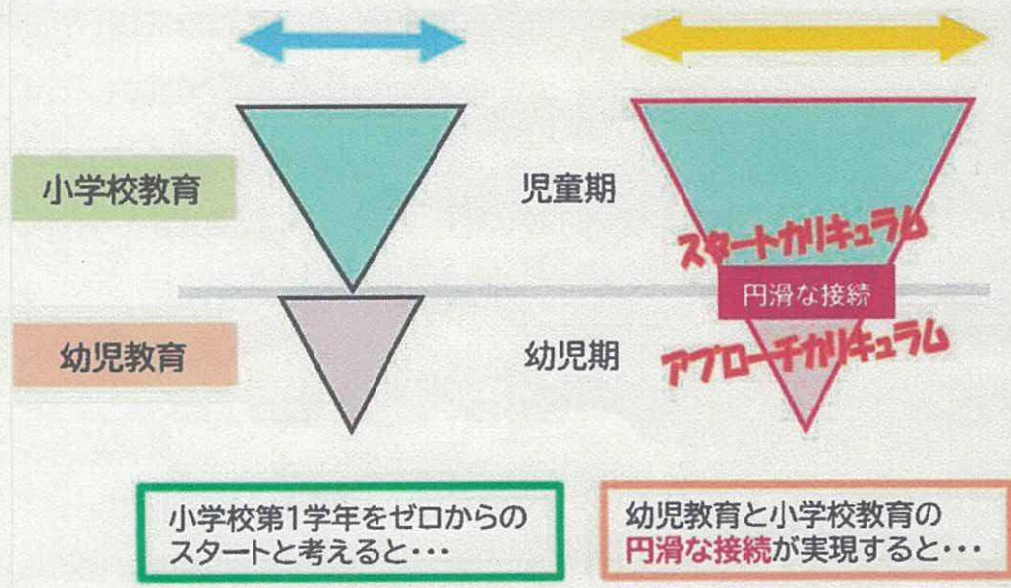
義務教育スタート前後の 5歳児～小1の2年間は、 生涯にわたる学びや生活 の基盤をつくるために重 要な時期！「架け橋期」

それまでの経験を生かしながら新たな課題を発見し、新しい方法を考えたり試したりして実現しようとしていく時期。

自分の好きなことや得意なことがわかってくる中で、1年生以降の学びや生活へと発展していく力を身に付ける時期。



5



主体性を育む **アプローチカリキュラム**

R4 大藤こども園 での実践

主体性を育む

アプローチカリキュラム



小学校って、
どんな
ところかな？
ちょっと
紹介するよ！

主体性を育む

アプローチカリキュラム



小学校のことで、
何か
ハテナのこと
あるかなあ？

主体性を育む

アプローチカリキュラム



校長先生に探検
行ってみたいか
聞いてみれば
どうかな...

主体性を育む

アプローチカリキュラム



校長先生
いるかな？

主体性を育む

アプローチカリキュラム



どうぞ！
どうしたの？
何かあったかな？

主体性を育む

アプローチカリキュラム



校長先生
あのね…

主体性を育む

アプローチカリキュラム



「オッケー
だったよ！」
「やった〜！」

主体性を育む

アプローチカリキュラム



あっ
けいすけ先生だ！
何やってるの？

主体性を育む

アプローチカリキュラム



すごい！
タブレットが
いっぱいあるよ

主体性を育む

アプローチカリキュラム

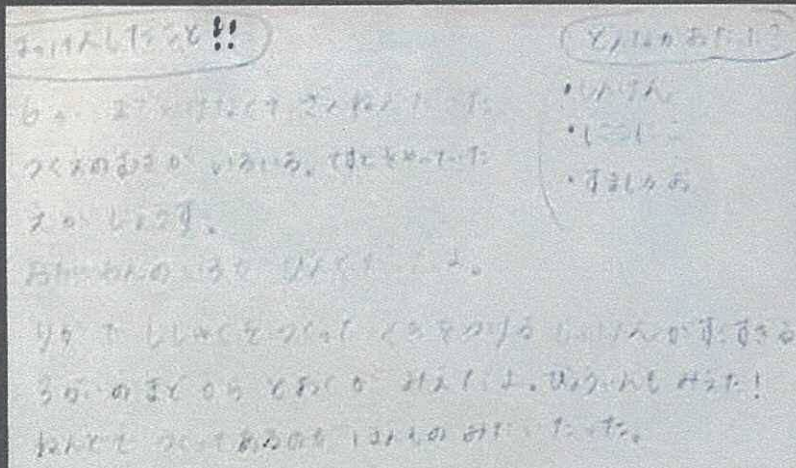
6年生は何の勉強かな？



すごいな～！
おもしろそう！

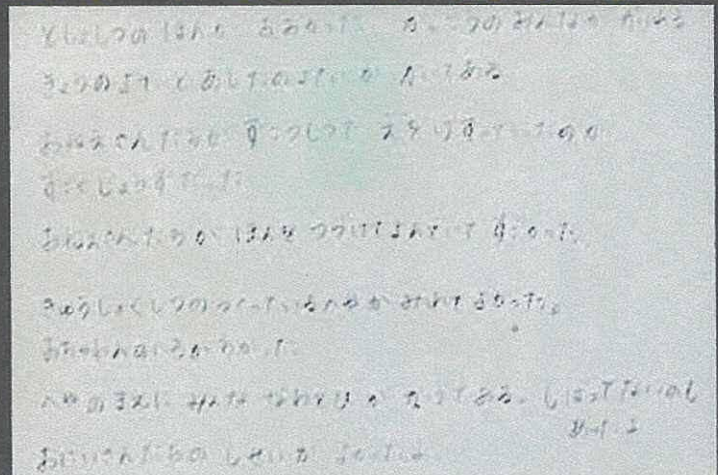
主体性を育む

アプローチカリキュラム



主体性を育む

アプローチカリキュラム



主体性を育む **アプローチカリキュラム**

探検で**確かめられたこと!**

探検で**発見したこと!**

探検で新たに**生まれた疑問!**

小学校が身近な存在に...

**まずは、不安な気
持ちを取り除く!**

-9-

Q5

小学校が使っている、
「**生活科**」の教科書って
見たことありますか？

A5



大藤小 スタートカリキュラム

なかよし

学年	1	2	3	4	5	6
1	1	2	3	4	5	6
2	7	8	9	10	11	12
3	13	14	15	16	17	18
4	19	20	21	22	23	24
5	25	26	27	28	29	30
6	31	32	33	34	35	36

8:50 ~ 9:20

スタートカリキュラムの入口



やっぱり
砂場遊びは
楽しいなあ...

スタートカリキュラムの入口

こども園の
みんなと色おに!
楽しい~😊



園長として⇒

連携の素地
づくりを!

連携・接続に関する、「発信」も大切だと思います！

園長のつばやき 心

もうすぐ小学1年生！楽しみだけど…ちょっぴり不安…
 ～小学校生活のよさを伝えて…『幼小接続』を視点とした発信～

こども園のリーダーとして一生懸命に頑張ってきた、きりん組の2・4名。もう少しでピッカピカの小学校の1年生です。「無邪気な心で、学年が一つ上がるだけ」大人はその位置に思いつちですが、実は子どもたちにとっては、それほど簡単なことではありません。

「小1プロブレム」という言葉を聞いたことがあるでしょうか？「入学したての1年生⇒無邪気な心とれない、授業中居っついてられない、話を聞かないなどの状態が数か月継続する」という状態です。入学前までは園生活の中で「遊び」を通して多くのことを学んできた子どもたち。それが、入学した途端に45分間続いた求道授業を受けたり、無邪気で行動をしたりする生活に変わるのですから、このような状態が起きるのは無理もありません。また、子どもたちはワクワクする気持ちと同じくらい、ドキドキの不安感も抱えています。

簡単に解決できる状態ではありませんが、子どもたちが安心して小学校に入学することができるよう、無邪気という利を生かしながら、『幼小接続』の視点で、アプローチの実践を行っているの少し紹介します。

2月のとある金曜日、きりん組では、担任が小学校生活の一週目、無邪気な心で紹介していました。「お兄ちゃんから聞いたことある！」「知らないことばかりだな」「男だから行ってみたいわい」。そんな言葉を聞いた担任は「いせなり学校に行っても大丈夫かな？校長先生に聞けば大丈夫かな？」そんな仕掛け第1弾に、「行くが行く！私が行く！」と何とんどの子が手を、その様子を見ていた私とじゃんけんをして、勝った3人が校長先生とお話をしに出掛けました。無邪気でガッツガツの様子でしたが、校長先生が上手に学校環境を話し合いを聞き出してくださり、無邪気OK！無邪気で教壇に乗り、嬉しそうにそのことを話すと、みんなは教壇を上げジャンプをしたりガッツポーズをしたりと大盛り上がり！こうして環境が実現しました。

「いろいろな発見をしてこよう」という共通のめあてを、月曜日の朝、学校環境に出発。やらされているのではなく、自分たちがやりたいという思いを強くもっての活動があり、目の色が変わります。教師の誘い子ども達に加え、うまく環境設定（日々の仕掛け）をしたことにより、主体性を育むことを大事にしたアプローチ的な発案と変わったわけです。前2学期の環境で様々な発見をした子どもたち、園に乗り、分かったことやもつと知りたいことを話し合いました。

不安な思いがあった子どもももちろん、きりん組の全員が、小学校入学を喜ぶ以上に楽しみだと思えるよう、無邪気の園生活でも『幼小接続』の視点を大切にしたい発信を運んでいます。そして入学後のフォローとなるようなスタートカリキュラムも、大園小と計画中です。



すべては、
 子どもたちの
 ため…



＜園目標＞ 心やさしく たくましい子 ＜重点目標＞げんきな子 やさしい子 がんばる子

寒さが徐々に緩み、春の足音が少しずつ近づいてきました。いよいよ卒園、進級の時期です。

4月には、まだまだおうちの方と離れるのが辛そうだったうさぎ組さん。かわいい年少児を迎え入れ、やる気と不安が交錯していたぱんだ組さん。園の中で一番のお兄さんお姉さんになったものの、まだまだ心配顔だったきりん組さん。あれからもうすぐ1年…。園の生活を通して、どの子ども、心身ともに大きく成長しました。一人一人の言動や表情からも、それを随所で感じ取ることができます。

今年度も残すところわずかとなりました。子どもたちにとって残りの一日一日が、実り多き日々となるように、友達や教師とじっくり遊べる環境を作っていきます。子どもたち一人一人が「有終の美」を飾ることができるように、職員一同、全力で保育にあたっていく所存です。今後とも、園運営へのご理解とご協力をお願いします。



園長のつぶやき



もうすぐ1年生！ 小学校隣接園の強みを生かして・・・

～楽しみになってきたぞ！ 早く学校行きたいな♪～

4月から、こども園のリーダーとして頑張ってきた、きりん組の22名。もう少しで大藤小の1年生です。昨年度も眩きましたが、「義務教育になり、学年が一つ上がるだけ…」大人はその程度に思いがちですが、実は子どもたちにとって、そう簡単なことではありません。

入学前までは園生活の中で“遊び”を通して多くのことを学んできた子どもたち。それが、入学した途端に45分間座ったまま授業を受けたり、集団で行動をしたりする生活に変わっていきます。いわゆる「小1プロブレム」という問題が起こるのは無理ありません。また、子どもたちはワクワクする気持ちと同じくらい、ドキドキの不安感も抱いています。

子どもたちが、少しでも安心して小学校に入学することができるよう、隣接園という利を生かしながら、昨年度から本格的に『幼小接続』の視点で「アプローチ的な実践」を行っているので紹介します。

2月5日(月)、大藤小の校長先生に、きりん組代表の5名が「学校探検」をお願いしに出掛けました。校長室が分からない子どもたちは、まずは職員室を訪問。教頭先生が、校長室まで優しくエスコートしてくださいました。みんな緊張した顔つきでしたが、校長先生が上手に学校探検をしたい思いを聞き出してくださり、無事OK！こうして探検が実現することになりました。

翌6日(火)の朝、早速学校探検に出発。1年生から6年生までの全教室、特別教室なども一通り探検させていただき、発見、発見の連続でした！約2時間の探検で様々な思いをもった子どもたち。園に戻り、分かったことやもっと知りたいことを出し合いました。たくさんあった聞きたいことの中から、グループで1つ質問を決め、1年生に質問をすることにしました。直接顔を合わせて質疑を行うことができればよかったのですが、なかなかお互いの予定が合わず…。そこはICTが充実している小学校！1年生から借りたiPadに、質問の動画をグループごとに撮影。次に録画したiPadを1年生の教室に届け、回答をお願いすることにしました。

すると9日(金)に、今度は1年生がわかりやすい回答動画を撮影して届けてくれました。その動画を、大きなスクリーンに映し出し、教室でワクワクしながらみんなで視聴しました。疑問や不安だったことを1年生から動画で教えてもらい、「小学校に行くのが楽しみになったよ。」と感想をもった子がとても多かったです。ひとまず、小学校に向けてのアプローチカリキュラム導入は大成功！

きりん組の全員が、小学校入学を今以上に楽しみだと思えるよう、残りの園生活でも『幼小接続』の視点を大切に実践を進めていきます。そして入学後のフォローとなるようなスタートカリキュラムも、大藤小と相談中です。

QRコード…大藤小のHPでもアプローチカリキュラムの様子が見られます。⇒⇒



R6教育新聞 4109号より

有識者検討会が中間整理案

幼児教育の考え方を小学校に

いじめの観点からも幼保小連携に言及

今後の幼児教育の教育課程の在り方などを議論してきた文部科学省の有識者検討会は6月19日、中間整理案が示された幼児教育の有識者検討会オンラインで取材



第8回会合を開き、これまでの議論を踏まえた中間整理案について協議した。中間整理案では、自発的な活動としての遊びを通して学びが小学校以降の生活や学習の基礎になっているとし、幼保小連携について、いじめや不登校の観点も含め多面的に掘り下げ、幼児教育の考え方を参考にした小学校の教育実践を広めていく考えを打ち出した。

昨年12月に設置された有識者検討会は、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の3も園教育・保育要領の3要素・指針に基づく教育

活動の成果や課題の検証、今後の幼児教育の教育課程、指導、評価について一体的な議論を重ねてきた。

この日の会合で示された中間整理案では、幼児教育施設は、要領・指針に基づき、意図的・計画的に幼児が関わりたくなるような魅力的な環境を構成し、幼児が主体性を発揮しながらその環境に関わる遊びや生活を展開することに、幼児の発達を促す「環境を通じて行う教育」を基としており、友達と一緒に遊ぶ中で人間関係を築めるなど、遊びを通しての指

導を中心的に行っていることの重要性を確認。

少子化や情報化、過疎化などにより、幼児の遊びや生活が変化し、自然との触れ合いや他者との直接的な関わりが減少していることから、幼児教育施設でこうした豊かな体験の機会を積極的に設けていく必要があること、幼児の自発的な活動としての遊びを通じた学びは、小学校以降の生活や学習の基礎となるだけでなく、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力など、社会のつくり手として必要な力の育成につながっていることを強調した。

一方で、3要素・指針は大綱的な基準であり、一部の幼児教育施設では子どもに興味・関心ではなく、SNSからの偏った情報やそれらに影響を受けた一部の保護者のニーズを優先するなどして、幼児の発達に合わない教育活動が行われていることを懸念。今後、少子化の進行とともに保護者の期待が過熱し、幼児教育施設間の競争が激化する中で、必ずしも適切とは言えない教育が行われていることが危惧されると指摘を聞いた。

また、幼児教育と小学校教育の接続では、一部の地域で幼保小の接続を感懐した教育実践が取り組まれ始めているなどの成果が出ている一方で、幼児教育施設と小学校の連携・接続を推進することは容易でないことや、幼児教育で育みたい資質・能力が小学校の各教科の学習・能力にどうつながっているのか理解することが難しいといったことが、小学校側に根強くあることなどを課題に挙げた。

さらに、小学校低学年でのいじめの認知件数の多さや不登校児童の増加率が高いことを踏まえるなど、いじめや不登校対策の観点からも、幼保小接続期の教育の充実について検討を行い、対策に取り組むことが重要だと指摘した。

その上で、小学校では、幼児期に幼児自身が遊びながら自発性を大切にした環境を通じた教育が行われていることや、その遊びの中から小学校以降の生活や学習の基礎となる資質・能力が育まれていることなどを踏まえ、児童が主体的に自らを表現しながら学びに向かえるようにしていくことが、授業や学習の楽しさや充実感を得ながら基礎的な学力を身に付けていくことにつながることを重要だとし、ICT環境や先端技術も活用しつつ、環境を

通じて行う幼児教育の基本的な考え方を参考にした効果的な教育実践の研究・普及を行っていくことが考えられるとした。

この他にも中間整理案では、幼児教育施設でのICTの活用や特別な配慮を必要とする幼児への指導、地域における幼児教育施設の役割などについて、条件整備に関して、複数の施設類型や私立園が多い中でも、幼児教育と小学校教育の接続などの観点から、設置者や施設運営を問わず、教育に関する指導・助言、研修の実施、専門人材の育成について、教育委員会が積極的に関与していく必要があると踏き込んだ。

この日の議論では、奈須正裕座長代理（上智大学総合人間科学部教授）が「環境を通じて行う教育とセットのものとして、幼児教育では幼児が生まれながらにして自らの学びを展開していく力を有している」という考え方を基にした子ども観がある。つまり、子どもは自ら能く学び手としていかにしても大事で、これがあるから環境を通して行う教育ができる。小学校でもこの考え方を共有して、いかに子どもが自ら能く学び手としていかにして環境や先端技術など、幼保小連携についての意見が多く出た。